

2018年9月19日

第9回日本語教育推進会議資料

大学日本語教員養成課程研究協議会（AUTP）

代表理事 山本 忠行（創価大学）

1. 大学日本語教員養成課程研究協議会（大養協）について

目的：本会は、日本および海外の高等教育機関における第二言語としての日本語の教員養成の向上に関心を持つ者に対して、研究の促進、学術的な大会の開催、出版物の発行、関連専門団体との協力に関する事業を行い、高等教育機関日本語教員養成課程の発展、社会教育ならびに国際協力活動の推進に寄与することを目的とする。（会則第3条）

設立の背景：国立国語研究所日本語教育センターでは1988年に「4年制大学における日本語教員養成をめぐる研究連絡協議会」を設けて議論を重ね、3年間かけて教員養成に関する報告書をまとめました。このときの協議会が母体となり、1991年に大養協が結成され、日本語教員養成課程のシラバスやカリキュラム、さらに卒業生のキャリアパスや資格・待遇などの諸課題について研究や情報交換に取り組んでいます。

副代表：鎌田美千子（宇都宮大学）

事務局長：副田恵利子（藤女子大学）

2. 最近の主な事業の紹介

3月10日 緊急ワークショップ 会場：早稲田大学

複言語環境下にある子どもの日本語教育を担う教師を育てる

—文化庁・文部科学省における教員養成・研修モデルの提案をふまえて—

講師：齋藤ひろみ（東京学芸大学教授）

伊東祐郎（東京外国語大学教授）

渡部倫子（広島大学准教授）

5月25日 春季大会シンポジウム 会場：お茶の水女子大学

日本語教員養成カリキュラムの現状と課題

—これからの日本語教員養成カリキュラムを考える—

発題者：増田麻美子（文化庁国語課日本語教育専門職）

永田良太（広島大学教授）

上田崇仁（愛知教育大学教授）

7月14日 夏の講演会 会場：大田区立池上会館
教科学習を支援する年少者日本語教育と教員養成
講師：バトラー後藤裕子（ペンシルベニア大学教授）
浜田麻里（京都教育大学教授）

10月13日 秋季大会シンポジウム 会場：清泉女子大学
日本語教員養成課程における新たな就活・キャリア形成とは
—日本語教育機関から一般企業まで—
発題者：西川寛之（明海大学准教授）
前澤由紀子（アークアカデミー日本語教師養成部）
関行太郎（株式会社トレデキム社長 日本語教育人材紹介サービス）
小松原祥一（元日本語教師、現在、行政書士）

3. 日本語教員実態調査について

本年度中に、現職の日本語教員個人を対象に、学歴・資格・待遇などに関する調査を、WEBを利用して実施する予定で準備を進めています。

日本社会の動向や日本語教育関連施策に対応した日本語教員の輩出を目的とし、実態調査を行います。この結果は、日本語教育の質向上とともに、必要な日本語教員の質と量を確保するための労働環境整備などについて議論するときの基礎資料とする予定です。



大養協秋季大会シンポジウム

日本語教員養成課程における新たな就活・キャリア形成とは
—日本語教育機関から一般企業まで—

開催日時：2018年10月13日（土）13:00~16:05

会場：清泉女子大学 1号館 131教室

参加費：会員1,000円、非会員1,500円

申し込み：こくチーズプロ

https://www.kokuchpro.com/event/daiyokyo18_10b/



プログラム

司会：酒井順一郎（九州産業大学）

13:00 開会の挨拶：

山本忠行（大養協代表理事・創価大学）

13:05 「日本語教育機関における待遇実態調査の報告」

西川寛之（明海大学）

13:25 「新卒採用の基準 - 教員から事務職まで -」

前澤由紀子（アークアカデミー日本語教師養成部）

13:45 「離職率を下げるための日本語教育機関の選び方と
教師志望者の在り方

関行太郎（株式会社トレデキム社長 日本語教育
人材紹介サービス）

14:05 「なぜ日本語教師から転職したのか」

小松原祥一（元日本語教師、現在、行政書士）

14:25~14:35 休憩

14:35~16:05 パネルディスカッション・全体討論

パネラー：上述の報告者、日本語教員養成課程の学生

問い合わせ先

大養協事務局：daiyojimu@gmail.com

大養協：HP：<https://daiyokyo.com>

